

平成20年度全国高等学校総合体育大会バスケットボール大会

第61回全国高等学校バスケットボール選手権大会

彩夏到来 08 埼玉総体



平成20年7月31日(木) 三回戦

Gコート 第2試合 本庄総合公園体育館(シルクドーム)

チームA		18 - 12		チームB
桜花学園 愛知	75	11 - 11	55	昭和学院 千葉
		28 - 8		
		18 - 24		

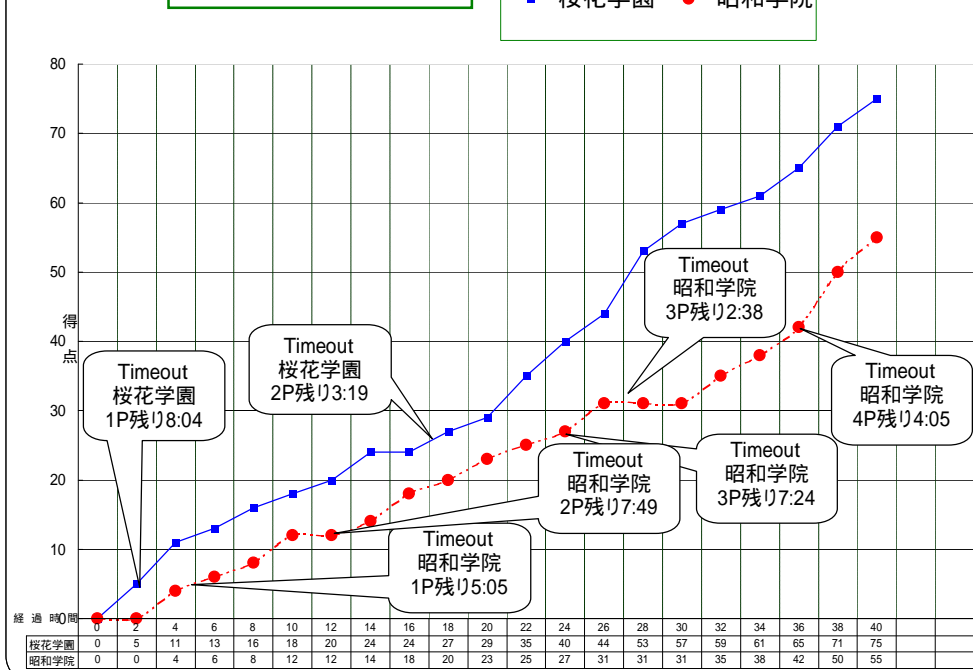
桜花学園

番号	氏名	出場	得点	3P		2P		FT		反則	リバウンド		TO	ST	AS	BS	出場時間 単位:分
				成功	試行	成功	試行	成功	試行		OF	DF					
4	後藤 美紀	✓	19	3	5	4	9	2	3	2	3	1	0	0	4	1	27
5	外山 優子	✓	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	3
6	岡本 彩也花	✗	2	0	4	1	7	0	0	4	0	2	4	0	9	0	24
7	水島 沙紀	✗	0	0	3	0	5	0	0	2	2	4	2	1	3	0	27
8	丹羽 裕美	✗	23	0	0	11	17	1	3	4	6	8	4	1	0	2	24
9	本多 真実	✗	3	0	1	0	3	3	3	1	2	2	2	0	2	1	33
10	梅木 智加子	✓	2	0	0	1	3	0	0	1	3	1	1	0	0	1	15
11	大西△-アゲアソまどか	✓	0	0	0	0	2	0	0	0	1	1	2	0	0	2	9
12	長尾 咲	✓	4	0	0	2	3	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3
13	村瀬 瞳子	✓	2	0	0	1	2	0	0	0	1	0	0	1	0	0	3
14	磯部 夏紀	✓	0	0	0	0	1	0	0	2	0	3	0	0	0	0	3
15	渡嘉敷 来夢	✗	20	0	0	10	13	0	2	2	5	12	4	0	3	3	29
コーチ	井上 眞一									0	2	4	2				
出場: ×は先発、/は出場			75	3	13	30	66	6	11	18	25	38	21	4	22		200
確率				23.1%		45.5%		54.5%			計	63					

昭和学院

番号	氏名	出場	得点	3P		2P		FT		反則	リバウンド		TO	ST	AS	BS	出場時間 単位:分
				成功	試行	成功	試行	成功	試行		OF	DF					
4	小林 礼奈	✗	3	1	5	0	1	0	0	2	2	5	3	0	4	0	40
5	常田 実咲	✓	5	1	3	1	4	0	2	1	1	3	3	2	2	0	32
6	長尾 彩美		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	DNP
7	松本貴和レシエル		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	DNP
8	元山 夏菜	✗	22	0	3	9	21	4	8	3	2	7	0	5	1	2	40
9	北館 美保	✓	7	1	6	2	9	0	0	3	3	1	0	1	0	0	34
10	大河原 晶子	✗	18	1	4	5	14	5	6	1	2	6	3	1	0	1	40
11	齋藤 玲奈		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	DNP
12	鈴木 茉里菜		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	DNP
13	眞茅 昂衣子		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	DNP
14	森戸 理紗	✗	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2
15	望月 陽子	✗	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	12
コーチ	鈴木 親光									0	4	3	0				
出場: ×は先発、/は出場			55	4	21	17	50	9	16	12	14	25	9	9	7	3	200
確率				19.0%		34.0%		56.3%			計	39					

2分毎による得点の推移



戦評

経験豊富な選手層の厚い桜花学園と、昨日、東海大三に快勝した昭和学院との対戦。

第1P、両チームハーフコートマンツーマンでスタート。インサイド中心に加点する桜花学園に対し、#8元山のドライブで対抗する昭和学院。開始2分で桜花学園がタイムアウト。その後、昭和学院がハーフコートの3-2ゾーンにしてインサイドを固める展開。18対12、桜花学園6点リードで第1Pを終える。

第2P、ディフェンスを2-3ゾーンで桜花学園の得点をおさえにかかる昭和学院。思うように攻めきれず残り3分19秒、桜花学園が前半2回目のタイムアウト。対する昭和学院も、内外角にわたり懸命に戦うものの身長差の前に得点が伸びず、29対23桜花学園6点リードが変わらず前半を終了。

第3P、昭和学院のゾーンを桜花学園がどう崩すか。逆に桜花学園の高さあるディフェンスに昭和学院がどう挑むかが注目された。#15渡嘉敷の連続ゴール、#4後藤の3Pと得点を重ねる桜花学園に対し、攻め手に欠く昭和学院。開始2分すぎにタイムアウト。しかし流れは変わらず#15渡嘉敷のブロックショットを含む3連続ゴールで51対31で、昭和学院2回目のタイムアウト。その後#15渡嘉敷をベンチに下げても、57対31で第3P終了。

第4P、ディフェンスをマンツーマンに変え、圧力を強め追い上げをはかる昭和学院。対する桜花学園は#8丹羽をコートに戻し、インサイドで着実に加点。流れを譲らない。終盤桜花学園は、エントリー選手全員をコートに送り出す。昭和学院も果敢に攻撃をしかけるが、流れは変わらず75対55でタイムアップ。第3Pの攻防が勝敗を決定づけたゲームであった。今後、将来性のある選手がいる両チームの活躍に期待したい。

主審	高橋 伸次	副審	富島 健司	戦評	一ノ瀬 和之 (埼玉県高体連)
----	-------	----	-------	----	-----------------

3P: スリーポイントシュート、2P: 2ポイントシュート、FT: フリースロー、OF: オフェンス、DF: ディフェンス、TO: ターンオーバー、ST: スティール、AS: アシスト、BS: ブロックショット